

**「コロナ禍における中小企業の人材育成の課題」について学会で発表しました。**

9月8日、9日に開催された工業経営研究学会全国大会（会場校・大阪市立大学、Zoomによるオンラインで実施）、大会テーマ『新型コロナ禍でみえた工業経営の課題』の「人間・技術・情報研究分科会」において、安久典宏、北尾隆夫、高尾明照、羽石寛寿の連名（いずれも（株）人材育成サポートセンター）で「コロナ禍における中小企業の人材育成の課題」を代表の安久典宏が報告しました。なお、分科会の地代憲弘主査より、発表の機会をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

以下にその概要や参加者からの意見、そして今後の展開などについて記載します。

**学会発表の概要**

研究目的は「人間の気質の変化」と「働き方改革」の二つの側面から労働環境の中でのミスマッチを解消することです。

1. 「人間の気質の変化」は、SNS やテレワークの急速な発達によるリアルからバーチャルへの変化がもたらす気質への影響。
2. 「働き方改革」は、①労働観の変化と職務の変化、②量の評価から質への評価へ、③非正規労働者の処遇改善。

これらは以前から抱えていた問題の顕在化であり、①国際化の対応が進んでいない、②世界に通用する人材の育成、③コミュニケーションの仕組み作り、が重要な項目です。

労働環境の中で特に社員間のミスマッチは、以前から抱えていた世代間や価値観のギャップの問題の存在です。それが、コロナ禍の中で急激に顕在化しました。その結果、組織の中で「個」の孤立が進んでいるのではないかと考えられます。本報告は問題提起の段階であり、今後の働きやすい労働環境はどうあるべきかについて、企業組織や人事管理、教育訓練、目標管理や自己啓発の観点から実証的分析に取り組んでいく予定です。また、今回は検討できなかったテレワークで顕在化した状況やその問題点、さらに経営側、従業員側の双方にとつてのメリット、デメリットを明らかにする事が必要だと考えます。

コロナ禍で十分な準備もないまま急遽導入された「テレワーク」は、家庭内の雑務や緊張を欠く環境のため仕事の効率低下や品質低下が懸念されます。このため、「テレワーク」が十分機能していない状態を指して「テイクアウト・ワーク」になっているのではないかとこの問題提起をしました。（この言葉の定義については、今後、議論を続ける予定です。）

仕事におけるコミュニケーションも必要最小限になりがちであり、テレワーク環境やマネジメントの在り方など多くの課題があり、今後はメルマガなども活用しながら、学会や研究会などで議論を深め、報告をする予定です。

### 参加者からのご意見（順不同・発言者略）

- ・「働き方改革」で上げた「非正規労働者の待遇改善」について、厚生労働省の方針として、正規労働者への転換奨励していることも考慮すべきだ。
- ・「個人の考え方や価値観の変化」の中で SNS による閉鎖空間を形成しているとの発表に対し、捉え方として「前向き」、「後ろ向き」の両面が存在するのではないか。
- ・SNS の空間に埋没しているという指摘に対して、大学生を見ていると、埋没しているというのは少し違和感を覚える。学生は LINE で情報交換をしている。本人の問題ではなく環境の問題かもしれない。表面上は、本人の問題だと見えるけども、本質はわからない。
- ・コロナで特に就活生は、大量の情報量をこなす切れずにいる、対応に必死。コロナによって情報量が膨大化し、さらに返信などの処理スピードが早くなっている。それに加え学生の先を予測する能力が十分に育成されていないため、学生に 5 年後 10 年後の将来像が読めないでいる。
- ・「組織の考え方や価値観の変化」の中で、部下に指示する仕事には「指示した以上のことを、やられすぎると困る仕事」と「付加価値のある仕事」があり、この二つについて管理者がうまく対応できずにいる。それは、管理者の能力の問題ではないか。

### 発表を終えて

アフター・コロナにおける新しい働き方としてテレワークの活用が注目を集める中、労務管理やセキュリティの確保の難しさなどの課題もあります。その中でも特に「コミュニケーション不足への対応」について、多くの企業で課題があると報告されています（「ウィズコロナ・ポストコロナの働き方」行政法人労働政策研究・研修機構資料シリーズ No.242 2110）。その原因の一つとして組織における世代間や価値観のギャップと SNS などの影響による「個の孤立」について本報告で問題提起しました。

（株）人材育成サポートセンターでは、これらの課題に対し、各企業様をサポートする中で、人材育成を支援し、生産性向上に貢献したいと考えております。

皆様からの忌憚ないご意見を、（以下の連絡先まで）いただければ幸いです。

以上

=====

産学連携-人材育成研究会

会 長 黒澤 敏朗（摂南大学名誉教授）

事務局長 山本 圭三（摂南大学 経営学部）

発 信 事務局長の山本圭三先生の代理で、副会長の安久が発信しました。

連絡先 安久 典宏 メール：coacher.no1@gmail.com 携帯電話：090-4298-7473

ホームページ <https://jinzaiken.ca-lab.jp/>

=====